

# ひらいた門

見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。 黙示録 3 : 8

VOL.02-05 NO.014 2010年05月

チャーチ・オブ・ゴッド

川崎南部キリスト教会

〒210-0025 川崎区下並木66

TEL&FAX 044-233-3648

Eメール：[nanbu-kyokai@nifty.com](mailto:nanbu-kyokai@nifty.com)

URL：<http://homepage2.nifty.com/nanbukyokai/>

## 「種をまき続けよ」

橋本幸夫

「わたしの口から出るわたしのことばも、むなしく、わたしのところに帰って来ない。必ず、わたしの望む事をなし遂げ、わたしの言い送った事を成功させる」

(イザヤ55:11)

アンデルセンの童話に〈五粒のエンドウ豆〉という作品があります。

〈ある所に一つのさやエンドウがあった。その中に五粒の豆が入っていた。一人の男の子がこれを拾い、さやの中から豆をはじき出し、豆鉄砲でこれを次々と打ち上げた。飛び出した五粒のうち三粒がはとの餌となり、一粒は台所の流しに落ち水にふやけてふくれあがってしまった。一番小さかった一粒は病気の女の子を待つ貧しい母親の住んでいる部屋の窓際に落ちた。やがてそこに可愛らしい花をさかせたため、女の子の病気がなおり、貧しい家庭に生命が輝き幸せがもどった〉。

こんな内容です。

明らかに主イエスがなされた〈種をまく人のたとえ〉(マルコ4:1~9など)が下敷きになっている作品でしょう。

これは伝道を考える時にとても励ましになります。無駄になった種や粒よりも三十倍、六十倍、百倍をもたらす一粒にこそ主イエスは注目し、そうした一粒があるのだと約束しておられるからです。

〈下手な鉄砲も数打ちや当たる〉とは言いません。しかしどこでどう芽を出し実を結ぶか分からないのです。だから〈これはダメであろう〉〈あそこはムダだろう〉とこちら側で判断してしまわず、ともかく種をまいてみるのが求められるのです。

主イエスは結果を予想せず、また予断することなく「その家に入るときには、平安を祈るあいさつをしなさい」(マタイ10:12)と、弟子を派遣する際に勧められました。

全く思いがけない結果というものはあるものです。意外性の証しとして私が救いに導かれたのは、酒屋の店員時代に御用聞きへ行った時ごみ箱の中から、ポケット聖書連盟発行の〈ヨハネ福音書〉を拾ったことです。

分からないものですね。いつどこでどうなるかは！だからこそみことばの種をまき続けましょう。主のことばが、むなしくならないことを信じつつ。